

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 23 年度

事業所番号	2799100090		
法人名	株式会社 フィールド		
事業所名	グループホームこころあい三津屋		
所在地	〒532-0036 大阪市淀川区三津屋中2丁目11-2		
自己評価作成日	平成 23年 11月 9日	評価結果市町村受理日	平成 24年 1月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、お一人おひとりに寄り添った支援に取組み、「出来る事」に視点を置いて、「生活レベル」「生命レベル」「人生レベル」からトータルとして捉え、その人らしく安心して暮らしていただくように支援に努めている。又、積極的に地域参加に取り組んで、地域に根差したホームを創りをしています。地域に支えられるだけのホームではなく、地域に貢献できるように取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2799100090&SCD=320&PCD=27
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 11月 28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大阪・兵庫6カ所でグループホームを運営する株式会社が、昨年11月に開設した2ユニットのホームです。夏は淀川の花火大会をホームの屋上から眺めることができる市内北端に位置する場所にあります。近隣住民と馴染みができ、散歩時には挨拶を交わしたり、周辺の清掃活動にも参加して、地域との交流を図っています。建物の内部のフロアは全面的に畳敷きになっており、内装も木を使っていて和風の温か味を感じます。「職員にお世話になっている」との思いを抱かせない、「当たり前のことを自然体でサポートする」視点を大切にして、職員は共に暮らしていると感じてもらえるよう心がけています。利用者や家族のターミナルになってもここで暮らしたいとの要望に応える寄り添ったケアを目指しています。外出の機会を多く設けたいとの思いから、「大阪クラシックコンサート」「高校の吹奏楽コンサート」等費用のかからない、無料のイベントをリサーチして出かけます。同法人6つのグループホームの管理者や主な職員が合同会議を開き、情報交換や勉強会を行っています。職員は毎月個々にスキルアップシートに目標を立て、自身の課題を明確にし、管理者は「優秀な人材」の育成に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念【心豊かに その人らしい 安心ある暮らしを大切に 愛と笑顔で 共に歩む】を各フロアに掲げ理念を共有して日々のケアに心掛けている。又、運営推進会議等で地域の方々にも理解していただいている	ホームの理念である「心豊かに その人らしい 安心ある暮らしを大切に 愛と笑顔で 共に歩む」は、法人が運営する6か所のグループホームと共通となっており、職員は理念の意義を理解しています。当ホームの理念として適用しています。1階玄関入口及び、2～3階の各フロアにも掲示しており、職員は理念を共有し、日々のケアで実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	班長として自治会会議に出席し、自治会行事には積極的に参加、お手伝いをさせていただいている 散歩時、近隣の方へ明るく挨拶、会話をするようにしている。又、入居者様と一緒にホーム周辺の美化・清掃をおこなっている 近隣の保育園等と交流を図っている	日々の散歩や買い物外出時に会う近隣住民とは挨拶を交わします。自治会に加入しており、近隣の情報を得ています。自治会の行事には参加し、ホーム周辺道路や公園の清掃には利用者と共に参加します。近くの保育園の運動会を応援に行き園児と交流を図ります。ホームの1周年記念会には、家族、後見人、元のケアマネジャー、地域の自治会副会長にも参加してもらいました。また、商店街の「みつや交流亭」での音楽祭に参加する等、地域との交流を図ります。毎月、ボランティアにより習字を楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	事業所連絡会、淀川区家族会等に参加し、日々の生活支援、認知症であるが故の周辺症状に対するケア、又、積極的な地域参加等の報告をさせていただき、地域の方々の理解を得られるように努めている。又、ホームご見学いただき、日々の生活（実際の状況）を見ていただくようにしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を2ヶ月に1度開催し、入居者様、家族様、地域の方に参加していただき、日々の生活状況、事故報告、地域参加報告等を行い、出席の皆様から意見、協力を頂くようにしている。又、該当する月例の全体会議において職員に報告し情報共有を図ることを通じてサービス向上を常に意識するようにしている	運営推進会議は2カ月に1度開催しており、地域包括支援センター職員や地域住民代表、利用者代表、利用者家族の参加を得ています。ホームの生活状況や新利用者の紹介、事故報告書等を行い、参加者からは地域の行事予定や、保育園児や小学生との関わり等、地域交流の機会を得られるような情報を得ています。	運営推進会議の規程に、「守秘義務」の項目を加えてははいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>入居者様、家族様からの相談・不安事への相談、意見をいただく。又、訪問時には日常のケア、入居者様の状況報告をさせていただいている</p>	<p>区の担当課とはホーム開設時から、相談・助言を受けています。支援課の担当者は年2～3回の訪問があり、利用者とは面談してもらい、助言や情報を得ています。事故報告を提出する程の事例はありませんが、書式は用意しています。区のグループホーム連絡会に参加し情報を得ています。市内で開催された「介護者家族の会」の作品展に利用者手作りの作品を出品しました。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束排除マニュアルを通して、月例の全体会議で勉強会を実施し、全職員に周知徹底している。又、日々の業務でも具体的な行為を確認し合いケアにあたっている。玄関の施錠につきましては家族様の意向で常時開放しておりますが、テンキー番号は掲示している</p>	<p>「身体拘束排除マニュアル」を作成し、職員は全体会議時に勉強会を実施しています。ホームの玄関壁面には『ころあひ拘束ゼロ宣言』として、拘束しないケアの実践について掲示し、周知しています。各フロアへのエレベーターは自由に利用できますが、1階玄関の出入りには電子ロックになっています。テンキー番号はキーの蓋裏に表示していますが、利用者は使用していない状況です。利用者が外出したいと思われるタイミングを職員は察知して、一緒に散歩に行きます。</p>	<p>今後、利用者や家族への心理的拘束感を軽減するための方策を、更に検討してはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを通して、月例の全体会議で勉強会を実施し、全職員に周知している。又、日々の業務でも具体的な行為を確認し合いケアにあっている。又、管理者、ユニットリーダーは職員の精神的なケアに努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、月例の全体会議で勉強会を実施し、全職員に理解してもらっている。成年後見人制度に関しては、入居者様の中で活用している方がおられるので、関係者間で話し合いをもち理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な時間をとり分かり易く説明させていただき、その都度、疑問、不安点を尋ねていただき、正確で丁寧な説明を行い、理解、納得して契約してもらっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、家族様には意見、要望がないかとアンケートを実施している。外部者に対しては運営推進会議においてその機会を設けている。その後、月例の全体会議で反映されるように話し合いの場を設けている	職員は、日々のコミュニケーションの中で利用者の要望や意見をくみ取り、運営に反映させています。家族の来訪時には気軽に話せるよう、職員は対応しています。年1回、家族アンケートを取り、家族の意見を参考にして運営に反映しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケート調査を実施している他、月例の全体会議で意見、要望を話し合う時間を設けている。又、スタッフ面談を実施し、個別の時間を設けている。それにより各職員の意見を吸い上げ、より良い運営に反映するように努めている	月1回の職員全体会議では意見や提案をする機会があります。職員に対して「介護サービスの運営に関するアンケート」を実施し、個別面談を実施しています。日常的にも管理者には相談・提案しています。また、法人の6つのグループホームの担当者が集まる「ホーム長会議」「主任会議」を毎月、「ケアマネ会議」を隔月開催しており、運営に関して提案する機会があります。職員間のコミュニケーションを図るために社内報「こころあい三津屋」を発行しています。管理者・主任・職員より、それぞれ一言を載せています。行事報告を記載し、周知できる機会にしています。ホーム内では「危機管理委員会」「美化委員会」「食品管理委員会」「オムツ委員会」「洗剤・備品委員会」5つの委員会をつくり、職員は各担当を担いサービスの向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員には、職務領域について把握、理解してもらいながら「優秀な人財」の育成に共同で取り組み、各自が向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「優秀な人財」育成の取り組みとして、個々にスキルアップシートを用意し、目標を立て自身の課題を明確にしている。又、日々のケアの振り返りも含め働きながらケアの質の向上に努めている。又、法人内外の研修、資格取得へのサポートも行っている。2ヶ月に1度グループ内交換研修も実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淀川区グループ連絡会に3か月に1度参加し情報交換をしている。又、職員間で3ヶ月に1度、「現場の声」として勉強会を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様、家族様を始めとして、今までの生活を支えてこられた方全般から情報収集し、まずは信頼関係の構築を目指し、傾聴の気持ちで寄り添い個々人にあった支援の方法を考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族様とも十分な時間を設定し、困っていること、不安なこと、要望等に傾聴の気持ちで接し、安心されるまで何度も面談を実施することを通じて、信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先ず入居者様の「出来ている事」「困っている事」を重視し、その中で、今必要とされている支援を見極め、入居者様、家族様と一緒に話し合いを行った後、種々のサービス(プラン)を設計し、実践できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の感情に共感の気持ちで寄り添い、日々の生活で「出来る事」をみつけ、ホームでの本人様の役割を担っていただき、一緒に生活していることへの実感を持っていただけるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々の様子や職員の思いを丁寧に伝える事により、家族様と職員の思いを共有し、本人様を支えて行く為の協力関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人様のこれまでの馴染みの場所や人間関係を継続できるように個々それぞれの生活習慣を尊重し支援している。又、ホームの近隣の方とも馴染みの関係を築けるように地域の催しものには積極的に参加するようにしている</p>	<p>入居以前に利用していた、ホームヘルパーや、かつて加入していた趣味のサークル仲間等、家族以外の方の訪問もあり、馴染みの関係の継続を支援しています。昔商売をしていた近くの喫茶店にコーヒー豆を買いに行き、店主と昔話ができるよう支援しています。ドライブで馴染みのある商店街や駅前を通り、懐かしい場所を眺める機会があります。また、イベントで外出した時には昔、利用者が商売していた土地周辺をドライブする等、馴染みの場所を訪れ、懐かしむことがあります。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>それぞれ本人様の生活歴や性格を尊重しながら、一緒に過ごす楽しみを感じていただけるよう職員が、入居者様同士の会話や場づくりの調整役となって支援している</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入居者様が亡くなられた家族様には、お手紙・電話などでその後のご様子などをお伺いしたり、ホームの方へ立ち寄ってくださるようにお伝えしている。又、他の施設へ移られた方には、ホームで仲の良かった入居者様と一緒に訪問させていただいている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりの中で、本人様の言動に注意し、何を望んでいるのかを推察し職員全体で話し合いながら常に本人様本位を念頭にケアしている。又、家族様からの情報収集にも努めている	入居申し込み時のフェイスシートに加え、入居前の生活や趣味等も含め生活情報アセスメントシートに記入して、職員間で共有しています。入居後は、利用者や家族から得た「生活歴」「社会資源」などを更に細かく項目別に記入し、これからの暮らしの希望・意向を聴き取り、ケアに反映できるようにしています。利用者の身体的状況・感情の変化等を把握し、できることに着目し、利用者本位の生活を支援しています。毎月末には利用者の暮らしぶりの写真を4枚載せて、個別に書面で報告し、家族と共に支える視点も大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様、これまで関係のある方々からどのような生活をされていたかの聴き取りをしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとり様の一日の生活リズムを把握し、小さな変化にも気づき、介護記録を通して職員間で把握・共有できるようにしている。又、できることに着目し、出来る限り自立した生活を送っていただけるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人様、家族様から日々の係わりの中で、要望や不安などを聴き、介護計画に反映している。又、居室担当を設け、ご本人の内面にも注意し、月1度のカンファレンスにおいて職員全体で意見交換し、現状確認と達成状況の振り返り並びに見直しをはかり、介護計画を実のあるものとしている</p>	<p>介護計画は6か月毎に、見直しを行っています。毎月カンファレンスを行い、3か月毎にモニタリングを実施しています。居室担当者は、担当利用者の小さな変化にも留意し、フロアの職員全体が参加するカンファレンスでケアの実践について提案・意見交換をしています。また、利用者の状態に変化があった場合は、随時居室担当者・計画作成担当者・主任・管理者でサービス担当者会議を開き、介護計画の見直しを行っています。介護計画の中から各利用者について重点項目を一つ選び、全員分を表にして、日々のケアで実践できているかをチェックできるシートを活用し、介護計画を把握できる工夫をしています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別ファイルを作成し、ケアプランに沿って支援する中、身体的状況、感情の変化等を記録し、職員間で情報共有している。又、就業開始前には必ず個別ファイルを確認するように義務づけている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況に応じて、通院や往診等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、図書館に本を借りに行っている。消防署とは協働で避難訓練を行っている。又、地域のボランティアの方にも訪問していただき、楽しい時間を過ごしてもらうひと時に協力していただいている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の他、以前からのかかりつけ医にも受診できるようご家族と協力し、通院の介助を行ったり訪問リハビリなどに来てもらうケースもあり複数の医療機関との関係を密に結んでいる	医療連携体制をとっている医療機関とは24時間オンコール体制をとっています。毎週医師の往診を受けています。歯科医の治療・口腔ケアも週1回受けています。入居以前からかかりつけの医療機関より、引き続き医療を受けている利用者は家族が付き添いますが、必要に応じて職員が通院介助を行う場合もあります。また、リハビリを希望する方には、整骨院の治療を週2回受けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員と訪問看護師とは、気軽に相談できる関係が出来ており、看護師との医療連携が密にとれる体制が出来ており迅速かつ安全な対応を実践している</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には、本人様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、入院による精神が不安定になることを極力防ぐべく医師と話をする機会をもち、ホーム内での対応が可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている。又、頻繁に見舞いに行くようにし、同時に家族とも情報交換しながら、回復状況等早く退院できるよう取組んでいる</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に対する支援方針については、家族、医師、看護師、職員間で話し合い、共有した支援方針を定めている。又、状態の変化があるごとに本人様の思い、家族様の気持ちの変化にも配慮し、精神的にも支えられるよう取り組んでいる</p>	<p>「重度化した場合における（看取り）指針」を定めており、入居時に説明しています。入居時に「看取り介護についての了解覚え書」を提出してもらいます。利用者の状況の変化と共に、家族・主治医・看護師・ホーム職員を交えて話し合い、ホームで看取りが可能な場合は、家族より「看取り介護についての同意書」を、再度提出して頂き対応しています。開設以来3名の看取りを行いました。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>リスクマネジメントに関しては、全職員が月例の全体会議で勉強会を行い、体得、習得するようにしている。又、緊急時対応マニュアルを整備し、その理解への周知徹底を図っている。消防署の協力を得て、救急手当や心配蘇生等の研修を実施し全職員が対応できるようにしている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て避難経路の確認、消火器の使い方及び実際に避難する訓練を定期的に行っている。又、マニュアルを作成し、月例の全体会議で勉強会を行い全職員に周知徹底している。地域との協力体制については、自治会や運営推進会議で協力をお願いしている	非常災害マニュアルを作成し、全体会議で「非常災害時の対応」についての勉強会を実施し、職員に周知していません。避難場所は近隣小学校であることも、認識しています。夜間対応を含めた消防避難訓練を年2回実施し、消防署の指導も受けています。地域住民にも協力を依頼しています。11月には「三津屋合同防災訓練」が小学校であり、参加しました。非常災害時の非常食品は備蓄しています。しかし、飲料水については在庫がない状況でした。	備蓄の保管場所は職員全員が周知し、非常災害時に最も必要な飲料水は、常時保存することが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、お一人おひとりに対し人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや応待をしている。月例の全体会議において勉強会を行い全職員に周知徹底している。日々の係わりの中ではユニットリーダーを中心に、不具合がないか職員間で意識向上が図れるように確認し合っている	職員は常に、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう留意しています。更に、全体会議時に「プライバシーの保護」についての勉強会を実施し、周知しています。職員は利用者の職歴や得意な事・趣味を把握しており、興味のある事をなるべく話題にしたり、紹介したりして、人格の尊重に努めている言葉かけをしています。職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、優しい雰囲気です。入職時には、守秘義務について誓約書を提出しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者本位で生活が送れるように思いや希望を傾聴し、自己決定できるように複数の選択肢を提案し、お一人おひとりにお声かけするようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりに寄り添い傾聴の気持ちで接し、本人様の一日のリズムを把握し、体調に配慮しながら、その日の本人様の気持ちを尊重しながら、その人らしく豊かに暮らしていただけるよう個別に柔軟に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着替えなどでは、出来る方にはしていただき、支援が必要な方には職員と一緒に手伝いながら、その人らしい身だしなみ、おしゃれができるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事作りや片付けは、個々人毎にできることを見極め、声かけしながら一緒にするようにしている。又、職員も一緒にテーブルについて楽しい食卓になるように声かけしながら食事をしている。</p>	<p>食材は業者より購入しています。食材提供業者の管理栄養士が毎食のカロリーを記した調理メニューを提供しています。食事の前には嚥下体操をしています。職員が三食とも調理しています。食事の下拵え、盛り付け、後片づけなど利用者と共に行います。職員も利用者と共に関わり合いに付き介助の必要な方にはさり気なくサポートし、談笑しながら、同じ物を食べています。食事摂取が積極的でない利用者には、本人が昔から呼ばれていた愛称で呼び掛ける等工夫をしながら、食事は時間がかかってもできるだけ、自分で口に運べるようサポートしています。また、食欲が湧くように漬物などを小皿で添える配慮もしています。行事の場合は食材の購入を利用者と共に行い準備する場合があります。誕生会には皆でケーキを手作りして祝います。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量、水分量は個別記録し、一日を通じて必要量が確保できるように支援している。又、食事は見守りの中で出来るだけご自身の残存能力を活かした飲食ができるよう支援している</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは声かけを行い、個々の能力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。月例の全体会議で勉強会を行って口腔ケアの重要性を全職員に周知徹底している。又週1回の歯科の往診により口腔内の清潔保持、口腔機能向上の指導を行ってもらっている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを職員間で情報共有し、トイレ誘導することでトイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。又、声かけをして残存能力を活かせるよう見守り支援している。入居前にオムツを使用されていた方に対しても、誘導することによりトイレでの排泄が可能となるよう取組んでいる	利用者一人ひとりの排泄習慣や排泄パターンを把握し、個別支援を行っています。プライバシーを尊重しながら、さり気なく自立に向けた支援ができるよう職員間で共有しています。入居前は入院しておりオムツを使用していた方が入居してから職員のサポートにより、トイレでの排泄が可能になった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝トイレ誘導し、排泄の習慣をつけていただくよう支援している。又、水分摂取や胃腸の働きをよくする食べ物を摂取していただくのと並行して日常的に運動を取り入れたり、薬での対応もしている。月例の全体会議等での勉強会において便秘の原因や及ぼす影響についての知識を職員間で共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を決めずに、お一人お一人ひとりの希望を聞き本人様のタイミングで入浴していただいている。自立した入居者様でも背中を流したりしながら見守りし、安全に安心して入浴を楽しんでいただくようにしている	基本的には週3回は入浴できるよう支援しています。希望があれば毎日でも入ることもできます。一人ずつゆっくり入浴を楽しんでいただき介助が必要な方もゆっくり対応しています。入浴時のリラックスしている時は、職員とゆっくり対話ができる機会であり、自立している方でも背中を流したりしながら、見守る場合があります。時には入浴剤を使用したり、季節のゆず湯を楽しんでいただきます。入居以前に銭湯を利用していた利用者は、入居当時ホームの個浴槽を好まず、銭湯での入浴を希望し、職員が付き添って、隣にある銭湯に行くことが多くありました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべくリビングで過ごしていただけるように家事などお一人おひとりに役割をもってもらい、活動する時間を設計し、夜間帯にゆっくりと休んでいただけるように支援している。体調などに配慮し、時には居室やソファなどでの休息もとっていただくようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬ファイルの作成や処方箋のコピーを整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は、他の職員と2重チェックを行い、本人様に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている。又、薬の処方や用量が変更されたり本人様の状態に変化が見られる時には詳細に記録し、協力医療機関との連携をより密に図るようにしている</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>お一人おひとりの出来ることに注目し、一緒にお手伝いをさせていただきようとしている。又、感謝の言葉を伝えるようにしている。外出や地域行事への参加などの楽しみごとなどは、入居者様と一緒に相談しながら行っている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりの希望にそって外出し、季節を感じていただけるように支援している。又、今までの馴染みの場所や趣味を大切に、ホームに入居されても今までの生活習慣を大事にするように心掛けている。普段行けないような場所でも計画を立てて出来る限り本人様の意向に沿うようにしている	利用者には希望を聴きながら、毎日散歩や近くのスーパーマーケットへ買い物に出かけています。介護記録にも散歩の実績を記録する項目を作っています。歩行がスムーズにできなくなった方は、散歩がリハビリと考えて積極的に散歩に行く事を楽しみにしています。地域での「納涼夜店」や「盆踊り」に出掛けます。町内会の行事にも参加します。また、法人の他のグループホームを訪問することもあります。御堂筋を中心に開催する「大阪クラシック祭」や「高校吹奏楽部のコンサート」、「邦楽演奏会」等を聴きに行き、生演奏の音楽を楽しみます。お弁当を持参して、お花見や万博公園へ遠出をすることもあります。家族と共に墓参りや外食に出掛ける場合もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっているので、本人様と一緒に買い物に出掛けている。又、出来るだけ本人様に選んでいただけるように支援している。お金を支払う時でも、ご自分で財布からだしていただけの方は見守り支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様といつでも気軽に電話ができるよう職員の方からお声がけして、通話していただけるように支援している。家族様からの手紙等は、時には職員が読んで差し上げるなどの支援もしている		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間などの湿度・温度に気をつけながら心地よく過ごしていただけるように注意している。調理においては、包丁の音や匂いなどで五感や季節を感じてもらえるような工夫をしている。又、入居者様と職員で季節を感じれる作品を作成し壁に飾ったりしている	ホームの玄関上り口は畳敷きになっています。靴を脱いで、自宅と同様にスリッパを履かなくても上がれます。2階・3階へのエレベーターを降りるとすぐ畳敷きのフロアになっています。リビングも廊下・居室も畳敷きになって、日本家屋の温か味を感じられます。リビングはい草の材質で床下暖房になっています。一周年記念会では利用者と共に手作りした装飾をしています。裁縫が得意な利用者と共に手作りした布製の大きな毎月活用できるカレンダーや、折り紙が得意な利用者の作品や習字等を掲示しています。今は、クリスマスに向けて布製のツリーも作っています。様々な手作り作品とくつろぎのある畳が調和して、温か味を感じるホームです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルの他にソファや椅子を置き、他の入居者様の気配を感じながらも独りでの時間を楽しんだり、気の合った仲間といられる工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、今までの家で使い慣れたものなどを持ってきていただき出来るだけ環境変化がないように配慮している。又、安全・安心に過ごしていただけるよう配置なども本人様、家族様と相談しておこなっている	居室には利用者が自宅で使い慣れた家具・家族の写真・手作り作品・仏壇・好みの小物など、馴染みの物や生活用品を持ち込んでもらい、住み慣れた生活空間の継続を保てるよう配慮しています。磯釣りを趣味にしていた利用者は、成果を立派な額入りの魚拓にして持ち込み、日々眺めて当時を思い出しています。鶴の折り紙が得意な方は、居室に工夫を凝らした様々な鶴を飾っています。お誕生日のお祝いには職員が手作りし、メッセージの入った色紙をプレゼントしてもらい、居室に飾っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレなどに手すりをつけ安全確保と自立への配慮をしている。又、トイレの場所や居室の認識をしていただけるよう工夫している		